令和６年度　外国語科・外国語活動実践・研究計画

部　員	○佐々木　絵理子、工藤　優花、丹　理人、山﨑　麻絵、石田　智之、山田　幹

研究テーマ
自分の考えや気持ちを伝えたいという強い思いをもって、外国語を用いたコミュニケーション能力を高めようとする子どもを育む学び

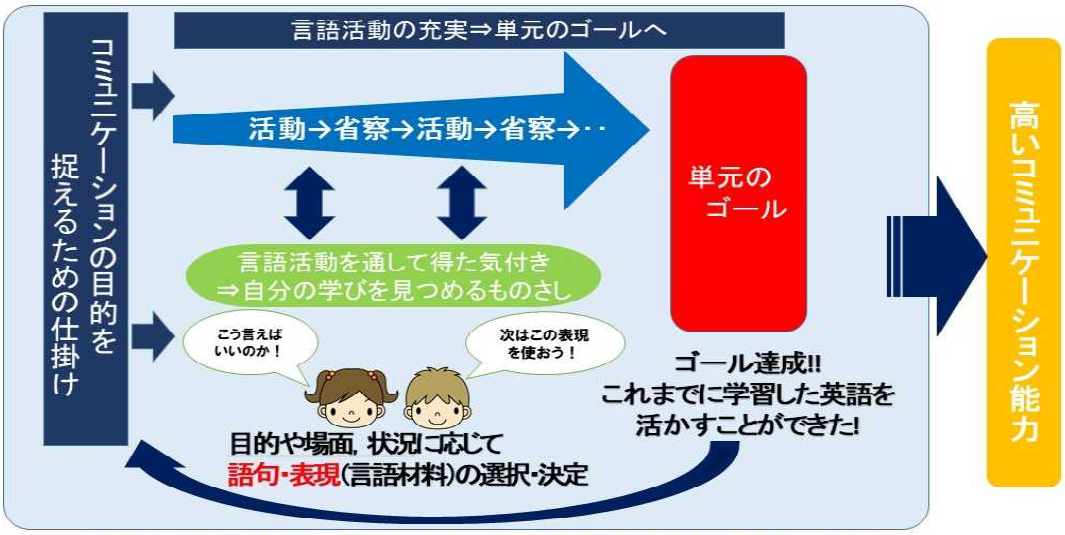
1　研究テーマについて

昨年度の実践では、ゲーミフィケーションを取り入れたり、単元や他教科の内容を組み合わせたりすることによって、場に応じた言語材料の幅を広げることを目指した。外国語を用いて考え、目的や相手に応じて、その場でのやり取りを何とか成功させようと伝え方を変えたり新しい語彙を知ったりすることは、使える言語材料の幅を広げ、学びのものさしを更新するのに有効であった。

また、ICT機器やポートフォリオ（学習の成果物）を活用して内容面や言語面での気付きの記録を生かしながら、次の学びにつながる省察の場の工夫に取り組んだ。さらに発表の際、より他者に伝わりやすい資料を選ぶことで、それを手掛かりとして必要な表現を用いて話すことができた。やり取りや発表を音声や動画で記録に残すことは、自分の学びをふり返り、学びのものさしを更新する材料となった。使用したシートや発表資料などの学習の成果物が手元にあることで、いつでもこれまでの学びを活用することができ、話すときの素材になる。これらの蓄積が学びを促進させるとともに次の活動につながった。しかし、実際のやり取りの場において、相手に配慮してコミュニケーションを図りつつ、表現の幅を広げることには課題が残った。子どもが語彙を増やしたいと思うのは、その必要が生じた時である。伝えたいという思いを新しい表現の獲得につなげていく活動が重要である。

こうした現状を踏まえ、外国語を用いて伝え合うことに喜びを感じ、主体的にコミュニケーションを図っていく姿を期待し、本研究テーマで実践を積み重ねる。

外国語科・外国語活動で目指す自律した子どもの姿
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、必要な語句や表現、方法を選択・決定し、言語材料を駆使して伝え合う子どもの姿
- 外国語を用いて相互に理解し合う自然なやり取りの中で、相手に配慮しながら、伝えたいという強い思いをもって、表現の幅を広げる子どもの姿



図：外国語科・外国語活動　自律した学習者を育てる学習のプロセス

2　研究の重点　＜○は具体的な取組の例＞

伝えたいという強い思いをもつコミュニケーションの実現に向けて、自らの学びのものさしを働かせながら学びをデザインしていくための手立て

○相手に伝えようとする強い思いをもち、子どもが使いたい表現や方法を選択・決定しながら、成功体験を積み重ねることのできる活動の工夫。

○モデル提示や他者との関わりを通して、必要な表現の幅を広げていくための学びのスタイルの構築。